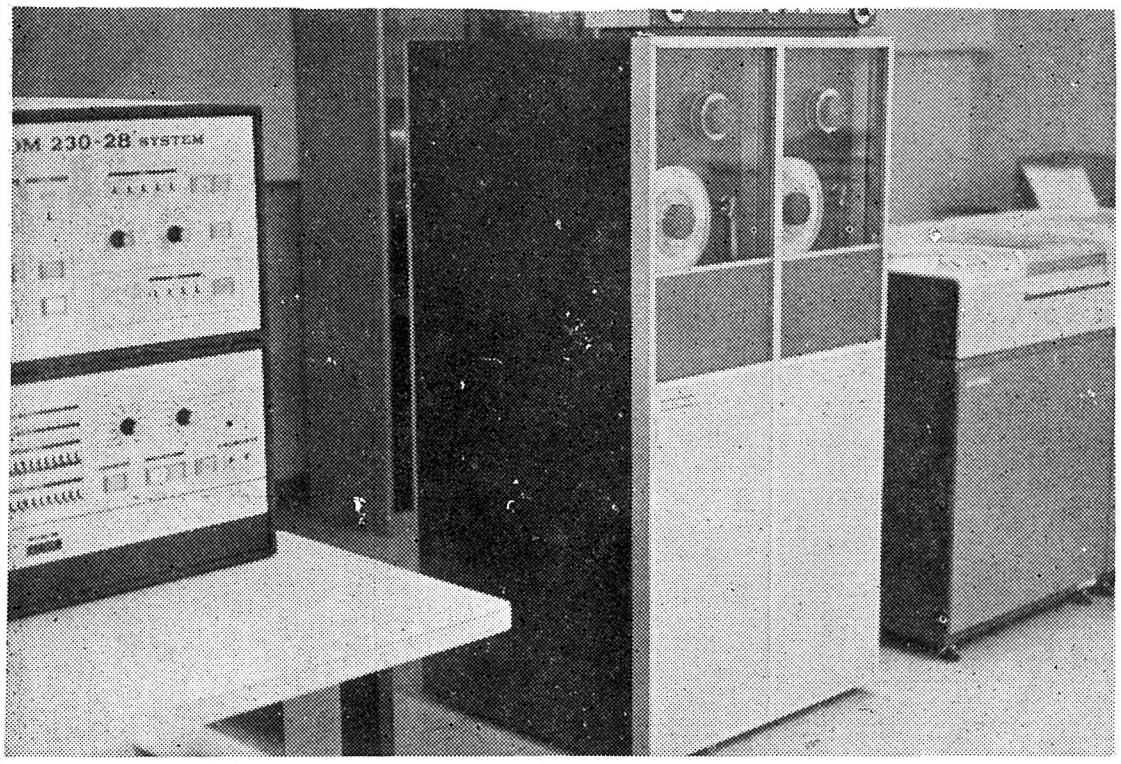
日本工業大学通信

発行所
日本工業大学
広報課
埼玉県南埼玉郡宮代町
郵便番号345
電話04803（2）3251

待望の電子計算機導入される

中型、汎用タイプ
研究、教育、事務処理に利用

システム工学科の新設にともなって購入が急がれていた電子計算機は、政府の研究助成金の援助により、ようやく導入の運びとなった。電算機委員会が中心となり、機種の選定などについて検討されていたが、FACOM230−28が決まり、現在、四号館南棟の電算機室に設置され、すでに稼動体制に入っている。近々、システム工学科のシステム工学演習に利用される予定である。



FACOM230−28は最新の機種で、CPU（中央処理装置）一置、磁気ドラム装置、磁気テープ装置、ラインプリンタ、カード読取機、カードせん孔機一デスクパック装置、カードせん孔機で構成され、カードせん孔だけは学生の演習のために四台が用意されている。すでに稼動準備も終えインプットされるデータ待ちといったところ。

コンピュータの使用については関係部署の代表からなる電算機運用委員会（委員長塩原正典建築学科教授）で使用規程を作るとともにコンピュータの管理、運営にあたることになっている。また、同委員会の飯倉道夫講師、土井誠助手（いずれもシステム工学科）の両氏によって、教職員・事務職員を対象としたコンピュータ利用者のための講習会なども開かれている。

学生の利用としてはフローチャートやコーディングなどの学習をしているシステム工学演習や来年度開講されるシステム設計学、それに受講者数などの条件がそろえば電算機計算法の学科目にも利用されることになろう。

本学のコンピュータと利用形態

FACOM230−28はFACOM230シリーズの中堅どころの機種。ひとくちにコンピュータといっても広範にわたり、デジタルコンピュータに限ってもその種類は形、性能、価格のうえからマイクロ、ミニ、小型、中型、大型それに超大型に分かれ、利用目的からも汎用と専用に分類される。

FACOM230−28はこの分類に従って位置づけるならば、さしづめ汎用中型デジタルコンピュータといえよう。また、コンピュータのコスト（価格）、パフォーマンス（性能）の点から見てみると各機種をさらにコンフィグレーションによって分類しなければならないが、要するに、使用目的にかなうものが使いやすく経済的であり、また、その能力が十分発揮されると考えられている。

さて、本学のコンピュータ利用だが、その利用目的については学内研究用、情報処理教育用、学内事務処理用の三つのパターンがある。

まず、学内研究のための利用として、コンピュータのもつ高速計算能力を駆使して人手ではなかなか厄介な計算を処理しようとする科学計算と、計算機内でいろいろな実験を模擬的に行うシミュレーションなどがあげられる。利用言語を主体とした場合、ALGOLやGPSSがある。この利用形態は図1に示す通り、プログラムとデータをパンチカードでコンピュータにインプット（入力）し、処理結果をアウトプット（出力）する方法が主である。

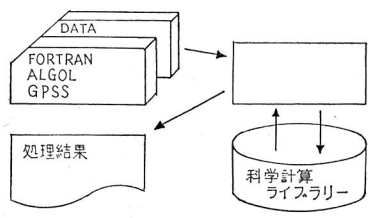


図1

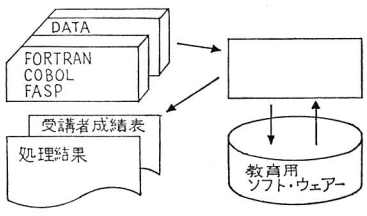


図2

次に、情報処理教育用の利用は計算機言語教育には言語教育用のソフトウェアを用いて行い、その内容はプログラム仕様を問題として与え、その問題にもとづいてプログラミング（コーディング）させ、マークカードとパンチカードにおとして機械実習をすることになる。（図2を参照）

最後に、学内事務処理の利用はいろいろあるが、経理・財務業務や教務・学生事務、図書管理業務などの機械化に利用されよう。これは今まで手作業で行っていた業務のうち、コンピュータにまかせられる部分は機械化し、事務処理をより迅速、正確に行い、より合理的かつシステマティックにするところに大きなメリットがあると考えられる。その利用形態を図3に示したが、システムを開発してしまえば入力データの方式いかんで、各種情報のメンテナンスやアウトプットなどが自由に行える。

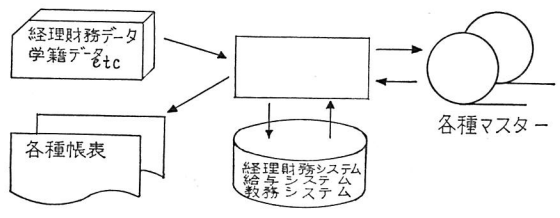


図3

行事予定

12・22〜1・9	冬季休業
1・10	講義始まる
1・10〜2・14	一般入学出願期間
2・2〜2・14	後期末試験
2・19〜2・21	一般入学試験
2・28	四年次成績発表
3・6	三年次成績発表
3・8	一・二年次成績発表
3・11	卒業判定
3・25	卒業式
3・27	進級判定
4・7	二年次
4・8	三年次
4・9	四年次
4・10	入学式
4・12	二年次オリエンテーション、健康診断（機械）
4・13	三年次オリエンテーション、健康診断（電気）
4・14	四年次オリエンテーション、健康診断（建築・システム）
4・15	昭和五十一年度講義開始

学生証、成績表、履修申告カード交付。

初代学長
小野先生ご逝去

本学の初代学長であった小野健二先生（本学理事・名誉教授、東北大学名誉教授）は去る七月二十四日午前三時五分、肺癌のため東京都台東区上野の永寿病院で逝去された。

葬儀および告別式は八月一日午後二時より上野の宋雲院においてしめやかに執り行われた。当日は御親族の方々をはじめとし、本学関係者、東北大学関係者等多数の会葬者があり厳粛のうちにも盛大な葬儀であった。ここに謹んで哀悼の意を表します。令 71歳。

先生は昭和四十二年に創設された本学の学長として迎えられ、大学の組織機構の整備、建物の建設等に意欲的に取りくみ、今日の本学の基礎を確立された。その間、全国を風靡した学園紛争に巻込まれる等多くの苦労を重ねられ、第一回生の輩出を機に学長の職を辞された。しかしその後も本学の理事の重責をはたされ本学への功績は多大なものがあった。

小野健二先生略歴

新潟県高田市出身。昭和二年東北大学工学部金属工学科を卒業。古河電工入社を経て昭和十六年には同大学教授に就任。以来東北大学選鉱製錬研究所長、日本金属学会副会長、日本鉱業会・日本鉄鋼協会支部長、日本学術会議会員、資源問題調査会専門委員等を歴任。金属製錬学、金属材料学を研究分野としその内容は半導体製錬、軽金属製錬、高融点金属製錬、ラテライト製錬等の広範にわたり、研究、教育の両面に嘱々たる業績をあげられた。その間、軽金属学会金属賞・日本金属学会谷川ハリス賞受賞、昭和四十九年には勲二等瑞宝章受賞の栄に浴した。工博

昭和五十一年度
学生募集要項きまる

昭和五十一年度学生募集要項が決定し、すでに推薦入学募集が開始されている。一般募集要項は前年度とほぼ同様だが、システム工学科と他学科の併願を認める方法を採用した点が新しい。選抜方法は従来通り、高校長の発行する調査書による審査と筆頭を含む面接による審査の二本立で実施する。

筆答は面接の参考資料とするため、英語・数学ならびに志願学科についての工業科目を課す。問題の内容は各科目ともにごく基礎的な問題で統一され、その配点比率は英語、数学各一に対して工業科目が二である。

個人面接の実施日時は受験票に記載される。面接では当日受験生が記入する「面接カード」をもとに、主に高校での学業状況や本学志望の動機などについて聞く。

天満宮社殿、建立へ

本学設立時の昭和四十二年、校地造成作業現場から天満宮の石祠が発見されたが、今度新たに天満宮社殿を建立することになった。

石祠は発見後、本学の東北隅にあたる現在の自転車置場の裏に安置されていたが、野ざらしで風化に耐えられない状態になっているため、大学内外の百余名にわたる多くの人たちからの発意で、天満宮社殿建立の発起人会（代表川島武夫元後援会会長）を結成、去る十一月十日地鎮祭が行われた。

天満宮は学問の神として菅原道真公をまつり、学業成就を祈願することで多くの人々の信仰を集めている。天満宮の石祠が本学の敷地内で出土したことについては、安政年間、当地に在住し寺小屋などを開くなどして学問に造詣の深かった庄屋・野口氏の邸内であったことなどからして、氏の子弟の教育・教養の向上を祈願して設けられたものらしい。

社殿は総ひのきの神明造りで他に鳥居と簡素な境内が造られる予定。遷座式は大学創立十周年目にあたる来年、六月二十七日（日）に行われる。

昭和51年度
学生募集要項

東工学園
日本工業大学

募集学科　機械工学科　電気工学科　建築学科　システム工学科
出願期間　1月10日〜2月14日…郵送は2月14日必着
試験日　2月19日　筆答…数学、英語、工業科目　午前10時10分開始
2月20日、21日面接…日時は指定
合格発表　2月28日…合格者のみに通知
入学手続期間　合格通知を受けた日から3月5日まで
試験場　第1試験場　本学工学部（埼玉県宮代町）
第2試験場　東京工業高校（東京都目黒区駒場）

願書は希望する試験場に提出する。
機械工学科、建築学科の受験生は、面接の際、卒業設計製図を持参する。システム工学科は機械系コース、電気系コース、建築系コースに分れるので、出願時に入学願書の指定欄の希望コースにマルを記す。

昭和49年度 資金収支計算書と貸借対照表の公開

四十九年度決算について

昭和四十九年度の活動状況を示す「資金収支計算書」及び期末における、資産・負債の状態を示す「貸借対照表」を公表して、本学の置かれている現状を、ご理解いただくこととしました。

ここ数年の決算書を検討しますと近年の物価高と人件費の上昇は本学の施設・設備計画に遅延を来したばかりでなく、特に教育経費と研究経費を徐々に確実に圧迫してきている事実に気づきます。創立十年目を来年にひかえ、いよいよ充実期に入る本学にとり、設備の充実はもとより、教育経費、研究経費の拡大・確保が課題と成ってきました。

一方私大が大きな期待を掛けてきた、国庫補助金は、当初予定の経常費の二分の一とはほど遠く、その実体は学生一人当り年間四万円にすぎず国立大生一人当り国庫負担額一六七万円（工科系は更に多額の負担と成っている）と比べて、あまりの格差に暗然と成ります。

この悪条件下で、本学は財政の健全化と教育研究資金の確保に全力をかたむけております。

ここに掲載した資金収支計算書〝次期繰越資金〟は一見、相当の高額と見えますが、本来この金額の中には、貸借対照表に記載されている退職給与引当金（約五三三万円）、未払金（約六、一五二万円）、学費前渡金（約三四、一五八万円）、預り金（後援会等）約四億二千万円及び、当座の運転資金としての適正額が含まれていなければならず、今回はこの他五十年度支払資金借入れ一億円（資金収支計算書収入の部に計上）も用意されなければなりません。

四十九年度末における、本学の適正な次期繰越資金は約六億円以上必要であったことが想定されます、なお、財務諸表の見方、四十六年より四十八年の推移については二月二十五日付日本工業大学通信第五号を参照下さい。

昭和四十九年度 資金収支計算書

科目	金額	科目	金額
収入の部		支出の部	
学生納付金収入		人件費支出	487694866
授業料	485700000	教育研究費支出	60972019
入学金	74700000	施設関係支出	55419951
実験実習費	65775000	設備関係支出	75174163
施設拡充費	167450000	管理経費支出	42015650
手数料収入	12414500	借入金等利息	106763018
寄付金収入	14876302	借入金返済	148943946
国庫補助金収入	136750000	その他の支出	44808605
資産運用収入	7091276		
雑収入	1956796	資金支出調整勘定	
借入金収入	100000000	未払金控除	△ 61525079
学費前受金収入	341585000		
未収金収入	6895349	次期繰越資金	375371500
その他の収入	6533797		
資金収入調整勘定			
未収金控除	△ 200000		
学費前受金控除	△ 279570000		
前期繰越資金	193680619		
収入の部合計	1335638639	支出の部合計	1335638639

貸借対照表（昭和五十年三月三十一日現在）

科目	金額	科目	金額
資産の部		負債の部	
固定資産		固定負債	
土地	485318480	長期借入金	1303334216
建物	1362128537	退職給与引当金	5330333
構築物	36208955		
教育用機器備品	345088773	流動負債	
その他機器備品	25413147	未払金	61525079
図書	106527878	学費前受金	341585000
車輌	1265806	預り金	14463638
電話加入権	611577		
有価証券	1212186	基本金の部	
長期貸付金	1546350		
		基本金	1169875153
流動資産			
現預金	120080100	消費収支差額の部	
法人勘定	255291400		
未収金	200000	消費支出超過額	△ 154607164
仮払金	613066		
合計	2741506255	合計	2741506255

人事異動

昭和50年10月1日付、人事異動が行われ、電気工学科主任教授・高木未夫教授の任期満了にともない、新主任教授に神谷六郎学生部長、新学生部長には岡本保雄電気工学科教授がそれぞれ就任した。また、工業地理学担当の竹内淳彦氏が教授に昇格、建築学科講師に桑原文夫氏が任用された。

岡本保雄教授（元主任教授）

新任

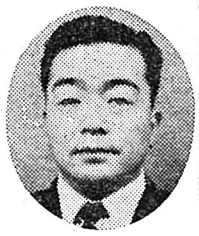
◎学生部長

◎電気工学科主任教授

神谷六郎教授（前学生部長）

昇格

竹内淳彦教授（工業地理学）



【同氏の略歴】東京学芸大学卒業。東京工業高校教諭を経て昭和四十年、本学助教授に就任し現在に至る。「日本の機械工業」などの著書をはじめ、多数の学術論文がある。東工学園評議員。

任用

桑原文夫講師（建築学科）

【同氏の略歴】昭和五十年、東京工業大学大学院博士課程修了。「液状化した砂地盤およびその近傍における間隙水圧に関する研究」などの論文がある。構造系の科目を担当する予定。

委嘱

伊藤恒太郎講師「機械工作法」

宇野沢敦夫講師「治工具設計」

小菅善一講師　独課

退職

岡野修一氏（機械工学科）

押切芳之氏（機械工学科）

為広重雄氏（機械工学科）

後援会地域別会員懇談会 全国八会場で開催

父兄、教職員との懇談に話はずむ

後援会活動の大きな行事の一つである地域別会員懇談会が、去る十一月二十三日の仙台会場開催をもって本年度中の計画を全て完了した。この計画は後援会が遠隔地在住父兄に大学教職員との直接的な面談の場を提供することを目的としており、いわば〝出張父兄会〟であるとも言える。今年は次の八会場で実施された。

関西、中国地方では鳥取県米子市内、広島県広島市内、大阪府箕面市内の三会場、四国地方では香川県高松市内、九州地方では熊本県熊本市内、鹿児島県鹿児島市内の二会場、東北地方では福島県飯坂市内、宮城県作並郡内の二会場であった。

米子、高松の会場は台風直後であったため近在の会員の方々が全員出席できなかったのは残念であった。また、本学の学生数が、全国的にみて（関東地方を除けば）東北地方に偏しており、関西以南の地形では学生数の分布が稀薄で広域を一会場でカバーせざるを得ず、このため関西以南では他に比較して相対的に出席者が少なかったのも残念であった。しかし、参加会員からはどの会場でも大学教職員との直接の面談は大好評であった。

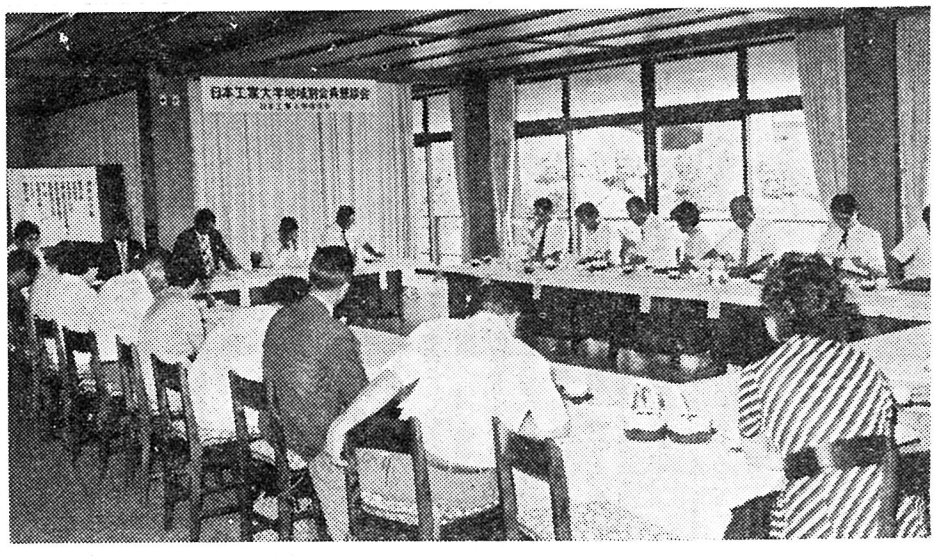
このようにして懇談会が……

今回の開催で一応全国を一巡したことになるのだが（東北地方では二回目の出席の方がふえてきた）先に述べた、広域をカバーせざるを得ない難点はあるにしてもこの活動内容が余り知られていないことを実感したので、ここでもう少し具体的にその内容を紹介してみたいと思う。

先づ計画立案に際しては①全国的な学生数の分布を調べる。②①の他に交通事情等を考慮して開催地を決定し会場を設営する。③その開催地でカバーでき得る地域在住会員宛案内状を送付する。④返信（この時に質問事項が記入できるようになっている）を整理して実施に必要な資料を作成する、などの手順をふむ。

懇談会では①参加会員、大学職員、後援会役員のなごやかな自己紹介と学長による大学の運営、教育方針、将来の展望などの説明。次いで教務部長、学生部長より、各々教学的なこと（例えば単位、成績について履修上の注意、留年・除籍について、就職状況についてなど）、学生生活上のこと（例えば学生の課外活動について、事故・アルバイト・下宿などについて、育英制度など）について具体的に説明、報告される。

その後に前述の返信時の質問事項をもとにその回答と質疑応答。個人面談へと移る。前回の例では機械工学科について大川教務部長（機械工学科教授）、電気工学科については岡本学生部長（電気工学科教授）、建築学科については塩原建築学科教授が個人面談を担当された。その学科の内容と個人的な心配事などが意外と気楽に、しかも直接その学科担当教授と面談出来るのは大きな魅力のよう。心配がとけてホッとニコニコ、腕を組んでウームと一言、など面談後の親の顔はさまざまである。そして夕刻より更になごやかな懇談会（会費要）へ移る。

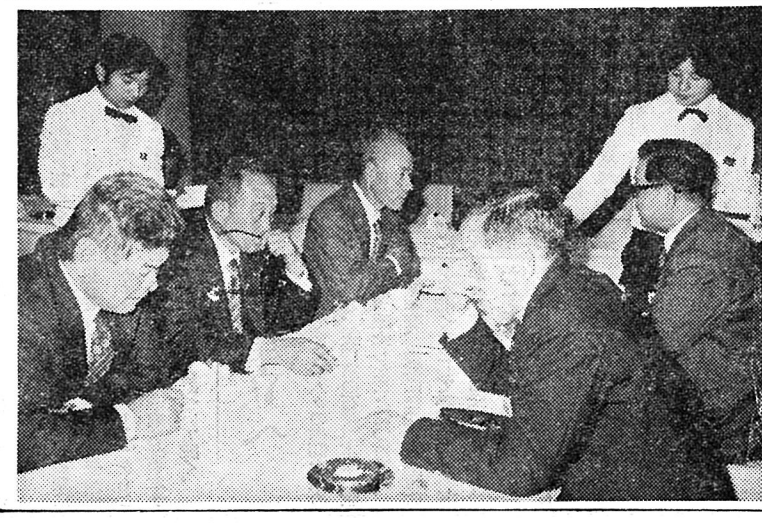


会員のより多くの参加を望む

以上懇談会について説明したわけであるが、今後更に内容の充実と改善を計らなければならないし発展的には支部の結成にまでこぎつけたいと願っている。

次年度計画への多くの会員の参加を切望したい。

秋季 体育会活動報告



◎アメリカンフットボール

ローズリーグ

城西大 32−14 日本工大

日本工大 14−12 国学院大

日本工大 28−22 大東文化大

亜細亜大 22−0 日本工大

東京経済大 14−6 日本工大

創価大 24−12 日本工大

二勝六敗・六位。

◎バレーボール

関東大学リーグ（七部）

埼玉大 3−2 日本工大

玉川大 3−0 日本工大

日本工大 3−0 武蔵大

日本工大 3−0 都立大

日本工大 3−0 東経大

三勝二敗・二位。（春季、八部優勝）

◎バスケットボール

関東大学リーグ（五部A）

創価大 67−63 日本工大

日本工大 85−54 桜美林大

日本工大 98−58 電気通信大

日本工大 81−61 東京産大

日本工大 87−49 流通大

日本工大 92−59 東京外語大

（五部Aリーグ優勝）

※五部A・四部B入替戦

日本工大 62−58 東京理科大

日本工大 86−55 東京理科大

（結果、四部Bリーグへ昇格）

◎野球部

新東京リーグ秋季戦（一部）

高千穂商大 5−0 日本工大

日本工大 9−5 東京電機大

日大農獣医 5−4 日本工大

日本工大 6−0 東京学芸大

創価大 8−7 日本工大

二勝三敗・三位

◎ゴルフ部

関東大学対抗秋季Fブロックリーグ戦で準優勝。

◎射撃

秋季オール関東学生ライフル射撃選手権大会

エアライフル団体二十五位

新人戦

エアライフル団体二十位、エアライフル個人十七位、吉本震弘（結果　吉本君が学連強化選手に選ばれる）

◎ラグビー

全国地区対抗大学ラグビー関東地区予選

一回戦

日本工大 28−14 東京理科大工

準決勝

新潟大 25−10 日本工大

この試合経過は体育会の報告にもとづいて掲載したもの。